



学んだ防災力 形に

津久見の堅徳小

【津久見】本年度、県教委の防災教育モデル実践事業校に指定されている津久見市の堅徳小（46人）は学年ごとにテーマを決めて探究学習に取り組んだ。11月27日、防災発表会を同小で開き、保護者や地域住民に成果を披露した。

5、6年生19人は「低学年にも分かりやすい地図」をテーマに、オリジナル防災マップ作りに挑戦。9月には大分大減災・復興デザイン教育研究センターの板井幸則客員教授の指導を受けながら、学校周辺の避難経路を確認してイメージを膨らませた。

模造紙に校区の地図を書き、安全な場所や危険箇所などを記入。一目で分かるよう、要所に現地の写真も貼り付けた。マップをお披露目しながら避難時に気を付けるべきポイントなども

避難経路図など作り披露

山本宏校長は「子どもたちの命を守る学習を通じて、家庭や地域でも防災を考えるきっかけとなる発表会ができたのでは」と総評した。（大海すみれ）

児童の発表を聞いた住民らは「小規模校を逆手に取った濃密な内容でとても良かつた」「防災力向上のため、今後も継続してほしい」といった感想を寄せた。



伝え、「高学年として、下の学年や地域の人たちに声をかけながら避難したい」と発表した。6年の高野翔天さん（12）は「備蓄品を保管している場所なども把握できた。災害が起きてしまった時に勉強したことを役立てたい」と話した。



〔問①〕 津久見市の堅徳小学校 5、6年生はどんなテーマでオリジナル防災マップを作りましたか。

低学年にも分かりやすい地図

〔問②〕 5,6年生は模造紙に書いた校区の地図に危険箇所（危ない場所）と何を書き込みましたか？記事から5文字で抜き出しましょう。

安全な場所

〔問③〕 防災発表会で5,6年生は、避難するときに高学年としてどんなことをしたいと話しましたか？

下の年齢や地域の人たちに声をかける（こと）

〔問④〕 地震や台風などの災害にそなえて、あなたの校区の安全な場所や危険な場所などについて、グループで話し合ってみよう。

グループ学習